



図2 SMART-HTML 画面

システム

本システム（図1）にはPCによる授業支援はもちろんのことLLの機能がどれだけ取り入れられているかが求められていた。今回導入したCalaboEX（アルプスシステムインテグレーション(株)¹⁾はフルデジタルの学習システムであり、機能的にもPCの授業支援システム、映像や音声の視聴覚教材配信システムはもちろんのこと、リスニングやスピーキングのLL機能を装備し、また個別学習への対応もおこなえる。

さらに、このシステムの特徴としてe-LearningシステムSMART-HTML（図2）があげられる。これはWebベースの個別学習システムであり、映像・音声メディア教材と自動採点機能を持ったテスト形式のテキスト教材を組み合わせた教材が提示できる。そしてこれらの教材管理はもちろんのこと、学習履歴も一括管理されるため、教員が個人やクラス全体の学習状況、成績等を日付別・期間別で把握することが可能である。

その一方でオリジナルe-Learning教材を情報機器の操作があまり得意でない教員でもワープロ感覚で手軽に作成できるシステムがあり、これらを連動して効果的に活用することができる。

期待される効果

学生はリテラシ教育を受けた後、このシステムでマルチメディアを活用して資料作成・分析・プレゼンテーションがおこなえるようになり、ゼミでの発表や学

外での発表でも積極的に情報機器の活用ができるようになると考えられる。また、このシステムでの教材作成には映像などのマルチメディアは不可欠であり、ICT（Information and Communication Technology）を中心に学んできた学生は教材作成に従事することでより高度なマルチメディアの活用法を身に付けることができる。そして以前より取り組んできた映像教材の活用が進むことが期待される。

さらに、語学学習で必要なリスニングやスピーキングの機能を始め、教師との会話のレッスン、学習者間の会話レッスンなどを盛り込むことでLLとしての機能を持たせ、語学学習も同時におこなえる。さらに、CAI（Computer Assisted Instruction）としての機能を持たせたCALL（Computer Assisted Language Learning）システムとして活用することで教師が用意した教材コンテンツを用いて学習者の能力に応じた語学学習がおこなえ、さらにデジタル化した教材を自宅に持ち帰ることで授業後の継続的な学習が可能となる。

そしてこの取り組みは語学学習のみならず、ゼミレベルで学生自身が例えば管理栄養士や看護師の国家試験対策用学習教材を作成し学習するような取り組みへと発展していく可能性をもっていると考えられる。

今後の課題

今回導入したシステムは上で述べたように機能的にはかなり充実しており、それを効果的に活用することでかなりの教育効果が得られると考えられる。しか

し、どのような素晴らしいシステムを導入しても活用されなければ意味がなく、そのためにもまずICT系コースの講義を担当している教員に対して教材作成の方法を提示していき、教材を電子化してe-Learningを積極的に進めていく。そして将来的には全学的な教材作成の場になるよう講習などで積極的に働きかけていく必要があり、そのための組織を整えていくことが急務であると考えます。

また、主に一斉講義を中心としたシラバスの提示やテストなどをおこなえるシステムの構築を別に取り組んでおり、そのシステムとの連動も今後検討していきたい。

そしてなにより安全に学内のサーバへ接続できる環境を整備していくことがそれらのシステムの積極的な活用につながっていくと考えている。

謝 辞

本報告のシステムは平成16年度私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費））情報通信施設（マルチメディア装置）の補助により整備されたものであることを改めてここに明記しておく。

参 考

- 1) <http://www.alsi.co.jp/>